

1. 事業実施報告書

① 当初段階の計画について

申請者名 (北陸先端科学技術大学院大学) ・ 観光地経営人材 ・ 観光産業人材育成

様式2

○事業概要 (プログラムの特徴や育成対象とする人材「観光地経営人材」or「観光産業人材」)
 これまで観光人材育成は、産業活動を支える観光産業人材と、観光地域のブランド化や地域間競争を支える観光地経営人材に分けて行われてきた。またその育成は、観光高等教育と実践的な現場育成の融合で、体系化されずに進められてきた。しかし、インバウンド観光旅行者が3000万人を越えた現在の国内観光では、国際的にも通ずる観光人材育成が必要である。またリカレント教育が社会的テーマとなった現在、個人の努力ではなく組織的、体系的、系統的な育成と教育効果の測定が求められている。
 そこで、この事業では、観光産業における個別最適ではなく、観光地経営と個別企業の経営を往き来でき、最終的にはDMOで経営の専門家として手腕を発揮できる「観光地経営人材 (DMOや観光行政の人材)」と、観光系の営利企業を中長期的に発展させることができる、「観光産業人材」を育成するカリキュラムとその運営システムを開発し、標準化と移転可能性の高いシステムとして完成させることを目的とする。
 なお実施に当たっては、北陸三県のDMOと連携のうえ、観光地域の全体最適を考慮のうえ、最新の学習理論や研修評価手法を取り入れた、効果のある人材育成、研修修了後も継続して成長が可能な、投資効果の高い人材育成プログラムを構築する。そして、産官が「学び」を通じて連携し、受講後も成長し続けることが可能な「ライフタイム観光リカレント方式」による、人材育成の自走化に向けたラーニングプラットフォームの形成を目指す。

北陸先端科学技術大学院大学は、学習やナレッジマネジメントとして評価されているSECIモデルなどの研究を行ってきたため、研修や学習教育分野での十分な研究の蓄積がある。
 またこれまでに後述する観光リカレント教育の実践や設計、監修をしており、プログラムのプロトタイプ開発をする事例や経験が豊富である。
 さらに、観光教育、特にリカレント教育を担当する研究者や実務家とのネットワーク連携も確約できる。



事業実施内容 (カリキュラム設計内容)



1. ガイドラインに基づくカリキュラム設計の基礎調査

- (1) 各地で実施中の人材育成の教育効果や設計思想を分析し、課題やその改善方法を明確にする
- (2) 各地の観光リカレント教育の実施体制方式の調査とその分析結果に基づく効果的な実施方法の開発
- (3) ガイドラインで示された人材像に基づく、教育目標や科目内容などの標準化したカリキュラム案を作成する
- (4) 国際標準に対応した教育内容、アクティブラーニングに対応した教授方法のガイドラインを作成する

2. プログラム構造と実施方式の検討

- (1) プログラム実施のための手順書を作成する
- (2) 各地の観光リカレント教育の実施体制方式の調査とその分析結果に基づく効果的な実施方法のとりまとめ
- (3) ライフタイム観光リカレント方式と自走化の予備的な検討結果 (* 本格設計は次年度)
- (4) 育成効果測定を、カークパトリックの4段階評価モデルを改良した科学的知見を取り入れて設計する

3. プロトタイプの設計と移転可能性の検討

- (1) 各地の観光リカレント教育の実施体制方式の調査とその分析結果に基づく効果的な実施方法のとりまとめ
- (2) 観光地経営人材育成と観光産業人材育成のコースのプロトタイプ化
- (3) 移転可能性の高い運営方式やマーケティング、ブランド化の検討

実施体制スキーム

本学のリスキル・リカレント教育センターでは、研究員で構成する研究・設計チームを持ち、金沢大学、金沢星稜大学の観光専攻など北陸地域の観光研究者のネットワークとも連携している。さらに申請に当たっては、北陸地域での試行や開発実践を行うために、北陸三県の県庁 (観光担当部局) と各県のDMOと連携する。



申請者名 (北陸先端科学技術大学院大学) ・ 観光地経営人材 ・ 観光産業人材育成

様式2-4

○開発する教育プログラムにより目指す成果

1. ガイドラインに基づくカリキュラム設計の基礎調査のとりまとめ

- (1) 各地で実施中の人材育成の教育効果や設計思想を分析し、課題やその改善方法を明確にする
- (2) 各地の観光リカレント教育の実施体制方式の調査とその分析結果に基づく効果的な実施方法のとりまとめ結果
- (3) ガイドラインで示された人材像に基づく教育目標や科目内容などを標準化したカリキュラム案の作成
- (4) 国際標準に対応した教育内容、アクティブラーニングに対応した教授方法のガイドラインの作成

2. プログラム構造と実施方式の検討

- (1) プログラム実施のための手順書
- (2) 各地の観光リカレント教育の実施体制方式の調査とその分析結果に基づく効果的な実施方法のとりまとめ結果 (1との共通項目)
- (3) ライフタイム観光リカレント方式と自走化に向けた予備的な検討結果 (* 本格設計は次年度)
- (4) 継続的な学びを促進するカークパトリックの4段階評価モデルを改良した科学的知見を取り入れた育成効果測定方法の基本設計

3. プロトタイプの設計と移転可能性の検討

- (1) 各地の観光リカレント教育の実施体制・方式の調査とその分析結果に基づく効果的な実施方法のとりまとめ結果 (1との共通項目)
- (2) 観光地経営人材育成と観光産業人材育成のコースのプロトタイプ原案
- (3) 他組織への移転も考慮した高い運営方式やマーケティング、ブランド化の検討結果

○事業の継続に向けた取り組み

事業の自走の為に、教育機関でのプログラム開発テストと運営スキーム開発の2項目を行う。

1. プログラム開発とテスト (2024年度)

- (1) 本年度開発したプログラムをプロトタイプとして完成する。科目数、時間数、評価方法を網羅したシラバスを作成する。
- (2) 教育機関 (大学・専門学校) に移転できるように、カリキュラム体系、設計方法の仕様書を作成する。
- (3) パイロットテストとして、人材育成研修を開講する。

2. 運営方法について (2024年度)

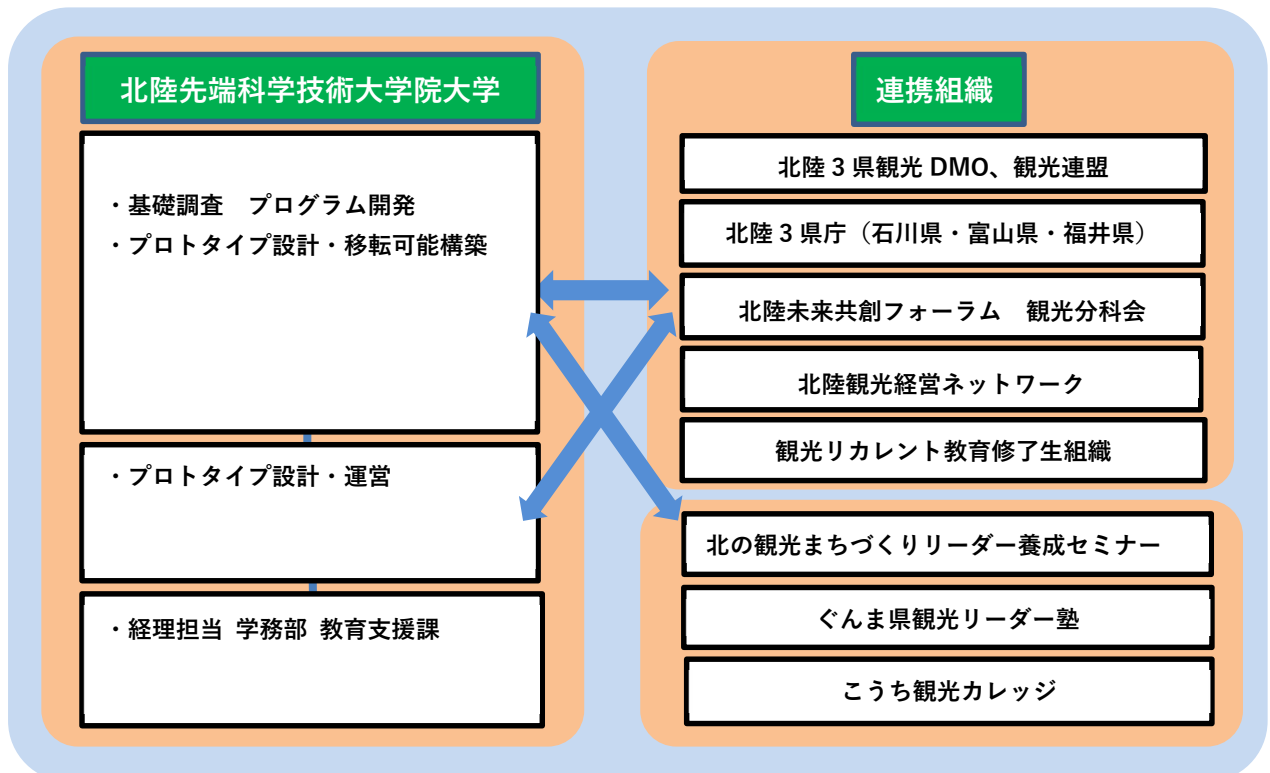
- (1) 教育機関が各自治体 (都道府県) と協働で開催できるように、組織作り、運営方法に関する講習会を開催する。
- (2) 人材研修の修了生が、フォローアップ研修や修了生同士の交流の場のプラットフォームの調査研究を行う。

本事業で、北陸だけでなく標準カリキュラムとして全国で利用可能な汎用性の高いものにするを目標とする。

・事業スケジュール

実施項目	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.ガイドラインに基づくカリキュラム設計の基礎調査								
(1)基礎調査（自治体、関連組織、DMO への調査）	○	○	○	○				
(2)標準化したカリキュラム案作成				○	○			
(3)調査結果と効果的な実施方法のとりまとめ				○	○			
(4)教授方法のガイドラインの作成					○	○	○	
2.プログラム構造と実施方式の検討								
(1)プログラム実施のための手順書 作成					○	○	○	
(2)自走化の予備的な検討のとりまとめ					○	○	○	
(3)育成効果測定方法の基本設計					○	○	○	
3.プロトタイプ的设计と移転可能性の検討								
(1)観光地経営人材育成と観光産業人材育成のコースのプロトタイプ案作成						○	○	
(2)移転可能性の高い運営方式やマーケティング、ブランド化のとりまとめ						○	○	
4.報告書作成							○	○

・体制図



② 事業実施内容について

1) 事項毎の整理

実施項目	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1.観光庁ガイドラインに基づくカリキュラム設計の基礎調査						
(1)基礎調査 (自治体、関連組織、DMOへの調査)						
① 国内大学	3つのポリシーの収集と調査(37大学) (～10月)					
	大学カリキュラムの収集と調査と分類 (～12月)					
	大学カリキュラムの整理 (～1月)					
	報告書執筆 (～2月)					
② 海外大学	大学カリキュラムの収集と調査と分類 (～12月)					
	大学カリキュラムの整理 (～1月)					
	報告書執筆 (～2月)					
③ 自治体プログラム運営組織 (DMO等)	運営組織向けアンケート依頼及びヒアリング調整(日程・内容) (～10月)					
	ヒアリング実施(6か所) (～1月)					
	アンケート実施及び回収・集計 (～1月)					
	報告書執筆 (～2月)					
(2)標準化したカリキュラム案作成	標準化方法論の立案 (12月)					
(3)調査結果と効果的な実施方法のとりまとめ	効果的な実施方法の立案 (～1月)					
	日本観光研究学会ワークショップ発表 (12/9)					
(4)教授方法のガイドラインの作成	効果的なアクティブラーニング手法の検討 (～1月)					
	アクティブラーニング研究会の開催 (2/9)					
2.プログラム構造と実施方式の検討						
(1)プログラム実施のための手順書作成	手順書作成 (～2月)					
(2)自走化の予備的な検討のとりまとめ	自走化の予備的検討 (～2月)					
(3)育成効果測定方法の基本設計	設計作業 (～2月)					
3.プロトタイプ的设计と移転可能性の検討						
(1)観光地経営人材育成と観光産業人材育成のコースのプロトタイプ案作成	作成作業 (～2月)					
(2)移転可能性の高い運営方式やマーケティング、ブランド化のとりまとめ	とりまとめ作業 (～2月)					
4.報告書作成	報告書執筆 1.(2)～3.(～2月)					

2) 報告概要

社会人向けリカレント教育における「足りない要素」とは下記のように整理できる。多くは、「社会人基礎力」である。

	社会人基礎力		カリキュラム
① マインド形成	「前に踏み出す力」(アクション) ・主体性 ・実行力	個々の人が自分自身や他者との関係を理解し、良好な心の健康を維持し、ポジティブな生き方を育むためのスキルや知識を提供することを目的としている。ストレス管理、感情の理解、コミュニケーション力、問題解決のスキル、ポジティブな思考を獲得する為に「ファシリテーション」のカリキュラムが必要である。	ファシリテーション
② スキル形成	「考え抜く力」(シンキング) ・課題発見力 ・計画力 ・創造力	・コミュニケーションスキル: チームワーク、プレゼンテーションスキル・顧客対応能力 ・問題解決スキル: 論理的思考・分析力・問題解決策定・創造的な解決策 ・リーダーシップスキル: チームリーダーシップ・意思決定能力・プロジェクト管理・マネジメントスキル	ファシリテーション
③ ネットワーク構築	「チームで働く力」(チームワーク) ・発信力・傾聴力 ・柔軟性・状況把握力 ・規律性	2つのネットワークが考えられる。 ・地域のDMO、研修実施に関わっている組織(自治体、大学、教育機関)によるネットワークの構築 ・修了生によるネットワークの事業支援等の構築	DMO
④ ステークホルダー(住民・行政・事業者)の巻き込み方	「前に踏み出す力」(アクション) ・働きかけ力 「チームで働く力」(チームワーク) ・発信力・傾聴力 ・柔軟性・状況把握力 ・規律性	ステークホルダーの参加と協力が得られると、プロジェクトの成果物や意思決定に対する支持が強化され、問題や課題の早期発見が促進される。 ・共有されたビジョンやゴールを確立し、ステークホルダーがプロジェクトの目的や意図を理解できるようにする。 ・ステークホルダーとの信頼性の高い関係を築くことで、リレーションシップを構築する。 ・ステークホルダーからのフィードバックを積極的に収集し、それをプロジェクトに反映させる。 ・ステークホルダーを積極的に参加させる方法を模索する。例えば、ワークショップ、プロジェクトへの参加機会等の提供などがある。 これらを獲得する為に、「ファシリテーション」のカリキュラムが必要である。	ファシリテーション
⑤ 稼ぎ方		・持続可能な組織を構築する為に、資金調達や助成金の獲得、寄付など様々な手段で資金を調達する。 ・地域内外の関係機関や企業、NPO、地方自治体などと協力し、連携による運営を行い、財政的な支援を実現する。 ・新たな収益源を確保するための、新規事業の開発を行う。	ファイナンス(資金調達、財務戦略)

8. 観光地経営人材研修・観光産業人材研修のプログラムの具体的な設計

プログラムの基本的な内容

1. このプログラムの役割

教育プログラムの汎用化、共通化

- ・ 教育プログラムを共通モジュール化することで開発コストを低下させる
- ・ 共通プログラムによる学習履歴の提供で、受講者の学習実績のキャリアオーバーを可能にする

効果のある教育プログラムの設計

- ・ 教育プログラムを設計と評価に耐える構造にする
- ・ いつのどこかの共通プログラムでもレベルを再現可能な設計にする

今後の働き方変革に耐えるプログラム

- ・ 今後の観光業界のキャリアビルドやワークスタイルを予測し設計する
- ・ AIやDX化が進んだ環境でもエンプロイアビリティや専門性を維持する学習とする

2 目指すプログラムの姿

汎用性と再現性が高く、将来の働き方変革でも耐えうる、国際的に通ずる教育システム

- ・ DSS(デジタルスキルスタンダード)などの標準化手法を採用する
- ・ 最新の学習理論を採用する教育手法の選択
- ・ DXおよびAI、観光の変容や役割変化を予測したカリキュラム設計
- ・ 能力を可能な限り分画して、何をどう学ぶかを規定する(国際標準への対応)

講義内容について

1. 講義時間の考え方

・事前課題(下調べ、文献購読等) + 講義 + 事後課題(レポート等)で1コマの総時間数が成り立つ。

2. 教育手法の種類

- ・実施形態・・・対面、遠隔、ハイブリッド、オンデマンド
- ・学習形態・・・座学、実習、演習、個別学習、グループワーク
- ・教育手法・・・アクティブラーニング、反転学習、ケースメソッド、ディスカッションPBL等

3. 単位について

- ・1単位は、原則90分×8回として設定し、事前事後学習を伴う(義務づける)ユニットとする
- ・ユニットごとにスキルとナレッジ(知識)を規定し、コンピテンシーを規定する

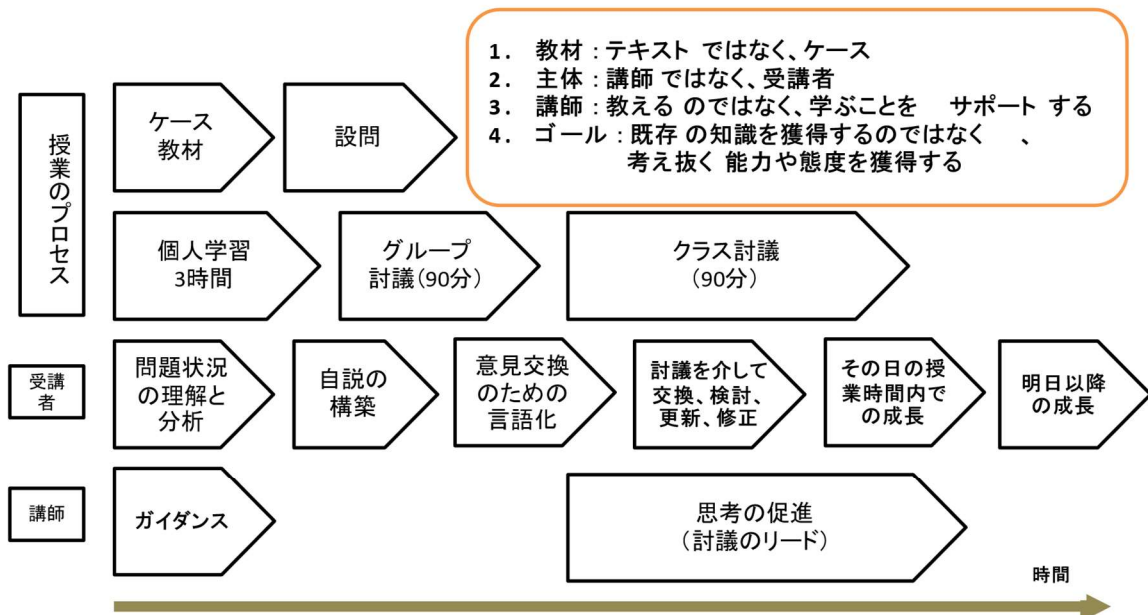
4. 観光地経営人材の講義

・全講義をインタラクティブにするために、事前課題(下調べ、文献購読等)で事前に学修してくる反転学習として、事後課題(レポート等)を設定する。

事後課題については、講師がルーブリックに基づき、評価する。

・ケースメソッドは、ケース素材を使って、受講生が主体的に考える講義で、講師はサポートする講義である。既存の知識を獲得するのではなく、考え抜く能力を獲得する。より事前学習が重要である。

ケースメソッド教育のプロセス



出典：KBS「ケースメソッド教授法」授業資料

③ 事業のまとめ

1. 観光系学部、学科を有する大学間では、大学毎の人材養成像の差から生じるカリキュラムの差が生じているほか、(社会人育成、リカレント教育という観点からしてみても) 教育水準にも相当の格差が生じている。
2. 日本の大学ではアクティブラーニングの重要性が理解されていない傾向にある。もっとファシリテーション等の技法を充実させることが必要
3. 地域において観光人材育成プログラムを実施する運営組織の「観光リカレント教育」のカリキュラムにおいても格差が生じており、内容の標準化を図るには困難が生じる。
4. 3. に関連して、運営組織間によって異なる「観光リカレント教育」のカリキュラムを単純比較することの難しさ。また修了生が得たいと思う知識と、事務局側が必要と考える学びのギャップをどう理解するか。放置したままでよいかどうか。まずは教育手法に着目する。

④ 次年度以降の計画・展望について

(略)

2. 教育プログラム計画書

観光地経営人材

1. プログラム概略（目的含め）

本プログラムは、観光を通じて持続可能な地域づくりを可能にする「観光地経営人材」の育成を目的に、これまでの研修開催期間だけの育成を脱し、地域のステークホルダーと継続的な協働関係に基づく、地域でのライフタイムの観光リカレント教育（継続的な能力育成）が可能な仕組みとなっている。

本プログラムで、育成する人材像は、地域の関係者や観光客と観光を通して共創することで、観光によって価値を生み出すために、地域ブランディングとマーケティングを進め、そのための DX 化による業務標準化と非営利組織としての DMO の運営を担う人材とする。

「ポストコロナ時代における人材育成ガイドライン」の 6 つの知識・技能に基づいた設計思想及び教育効果の視点に基づくカリキュラムと育成する能力を反映したプログラムとなっている。

2. プログラム内容

知識・技術	科目名	講義時間	教育方法
1.観光地経営戦略	観光地経営戦略	90 分、15 回	講義と WS
2. 現代の観光地経営の動向 「能登の復興を考える」	DMO・DMC の実態とこれからの観光地域	90 分、15 回	講義と WS
3. 観光地経営組織マネジメント	事業開発人材育成	90 分、12 回	講義と WS ケースメソッド
4. 観光経営組織マーケティング	観光関連調査	90 分、8 回	講義と WS ケースメソッド
5.地域観光のイノベーションと観光 DX	DMO 組織づくり観光地における価値創出	90 分、12 回	講義と WS ケースメソッド
6. 観光地経営のアントレプレナーシップと事業開発	アントレプレナーシップとして事業立案	90 分、12 回	講義と WS 発表

* WS はワークショップ

3. プログラム特徴（独自の取組・工夫など）

(1)観光人材育成における三県 DMO 協働による効果

①プログラム開発時の経済性

協働することで、各県で別個にスクールを組成するよりも労力・時間をかけずに良いカリキュラムを生成できる。

②プログラム内容の有用性

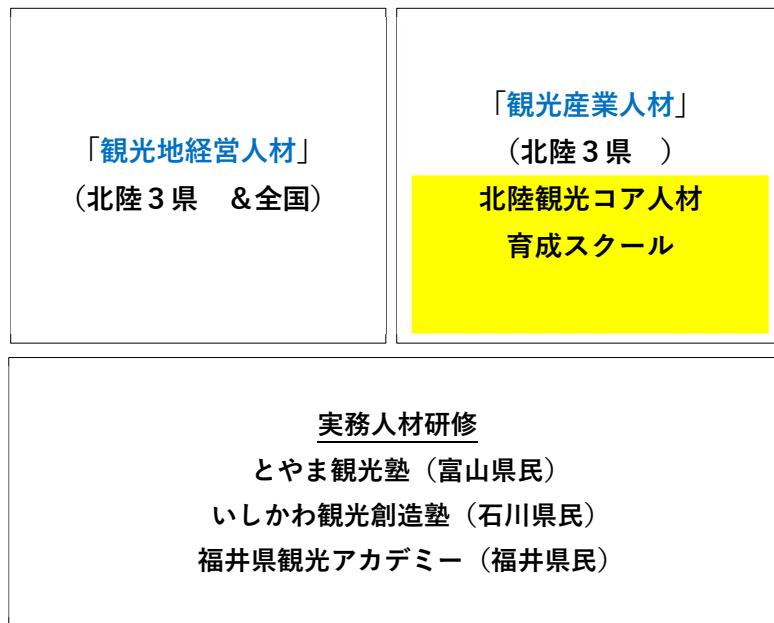
北陸三県それぞれの課題にこたえ、特定の地域の個別最適ではなく、全体最適を考慮した汎用性の高いカリキュラム構成ができる。

③プログラム受講時の人材交流

A のスクール内における、「広域連携」のための DMO・観光行政間の人的ネットワークが醸成できる。

④プログラム受講後の人材プール

スクール横断的 (A,B,C) な修了生ネットワークによる、産業と県境を越えた新事業、プロジェクトの創出が期待できる



(2) プログラム設計における能力規定

- ① ワークロールまたはポジション = 何を実現する人かを規定 (例: DMO のマネージャー)
タスク = どのようなことをする人かを設定 (例: DMO マネージャーとして地域ブランディングを実施)
- ② コンピタンス = タスクを実施するために必要な学修成果 (〇〇ができる、という能力規定)
(例: ブランディングの基礎を理解している)
(ただし、経験で読み替え可能: DMO で何年〇〇を担当した。△△で〇〇スキルとナレッジを学んだ)
- ③ スキルとナレッジ = 支えるための個人的資質と学習実績
スキル = 繰り返し実施できるプロセス遂行技術 (例: ブランドイメージを構築できる)
ナレッジ = スキルを支える必要な体系的知識 (例: ブランディングプロセスを理解している)

(3) 能力規定と各科目の関係

各科目は学習すべきスキルとナレッジで構成し、能力を分画して説明できるようにする。

今までは、①観光地経営戦略 経営戦略に材料となる自身の地域資源特性を理解し、編集する実務担当者としての能力(観光地経営戦略策定する手法を学ぶ)。

これからは、①観光地経営戦略を樹立できる戦略マネージャーは、戦略樹立のプロセス理解、戦略樹立の標準アプローチの知識と組織で樹立するプロセスを設計できる。

(4) 講義内容について

① 講義時間の考え方

事前課題 (下調べ、文献購読等) + 講義 + 事後課題 (レポート等) で、1 コマの総時間数が成り立つ。

② 教育手法の種類-

- ・ 実施形態・・・対面、遠隔、ハイブリッド、オンデマンド
- ・ 学習形態・・・座学、実習、演習、個別学習、グループワーク
- ・ 教育手法・・・アクティブラーニング、反転学習、ケースメソッド、ディスカッション、PBL 等

③ 単位について

- ・ 1 回は、90 分として設定し、事前事後学習を伴う (義務づける) ユニットとする
- ・ ユニットごとにスキルとナレッジ (知識) を規定し、コンピテンシーを規定する

(5) 観光地経営人材の講義

- ・全講義をインタラクティブにするために、事前課題（下調べ、文献購読等）で事前に学修してくる反転学習として、事後課題（レポート等）を設定する。
- ・事後課題については、講師がルーブリックに基づき、評価する。
- ・ケースメソッドは、ケース素材を使って、受講生が主体的に考える講義で、講師はサポートする講義である。既存の知識を獲得するのではなく、考え抜く能力を獲得する。より事前学習が重要である。

4. プログラム受講によって修得できる知識・技能

- (1) 地域資源の持続可能な開発や利用を推進する能力
- (2) 受講者自らが依拠する特定の観光分野の体系化された専門知識。
- (3) プロジェクトの計画、実行、評価するプロジェクトマネジメント能力
- (4) 多様なステークホルダーと連携するためのファシリテーション能力
- (5) 資源を経済に変換する知識やスキル（アカウンティング）
- (6) マーケティングや広報活動に関する知識とスキル
- (7) 組織運営のためのガバナンス能力と非営利組織、NPO のマネジメント能力。

5. プログラム提供によって輩出する人物像（受講対象者と受講後の姿など）

(1) 受講対象者

①北陸 3 県観光関連産業の対象者

- ・観光協会の事務局長・温泉組合の事務局長・商工会議所、商工会の事務局長・自治体観光部署の社員・旅行会社のマネージャー・DMO・DMC のマネージャー・「道の駅」等の観光施設の駅長クラス・宿泊施設のマネージャークラス・地域運営組織の事務局長・観光産業人材（北陸観光コア人材育成スクール）、観光実務研修（いしかわ観光創造塾）及び北陸 3 県の同等クラスの人材研修修了生

②北陸 3 県他産業からの対象者

- ・他産業のマネージャークラスで、一定レベル以上の観光実務担当研修の修了者又はマネージャークラスの研修修了者・観光産業に職務経歴のあるマネージャークラスで、観光産業に復職するもの
- ・北陸 3 県で開講している観光人材育成研修又は同等クラスと認める研修の修了者

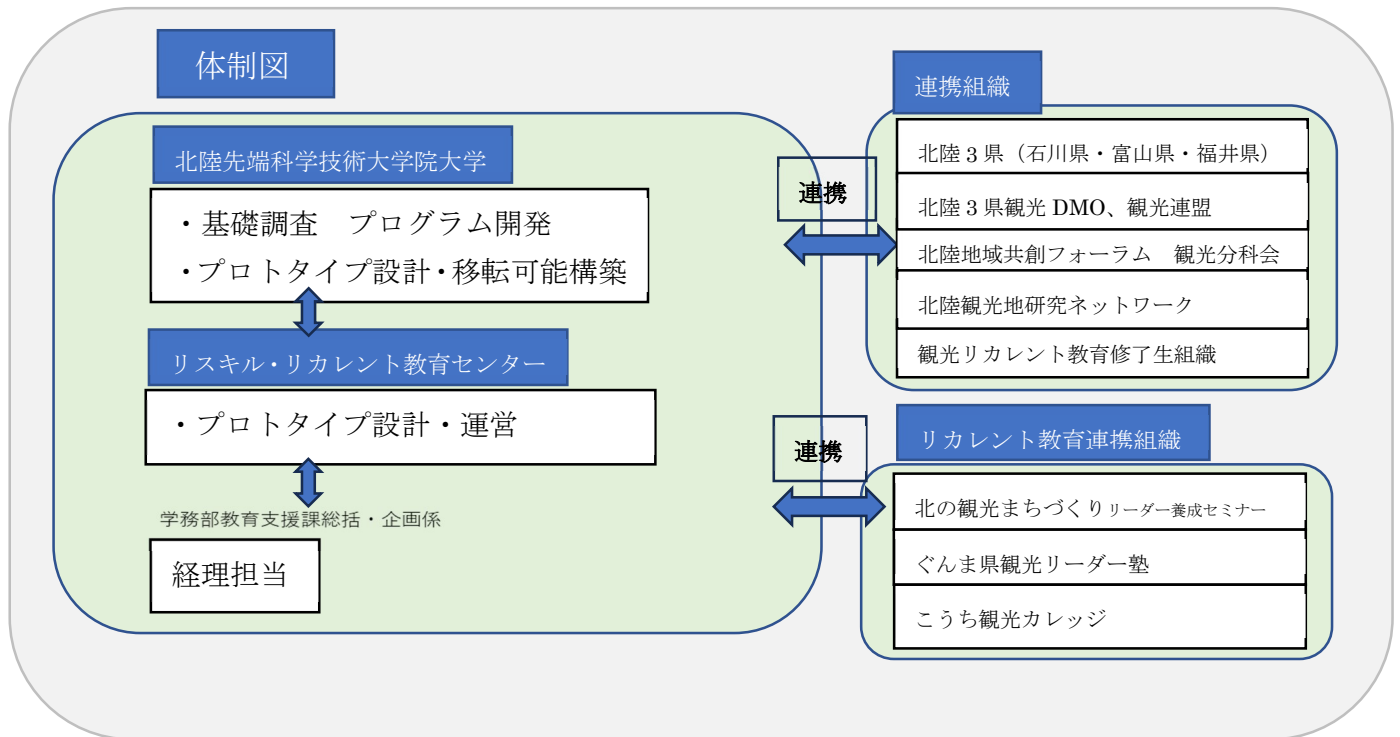
(2) 受講後の姿

- ①観光地域の発展に向けた戦略的ビジョンを持ち、それを実現するためのリーダーシップを発揮できること。
- ②観光地域の文化、歴史、社会構造を理解し、地域社会との協力関係を築く能力
- ③観光地域の魅力を的確に伝え、観光客を引き寄せるためのマーケティング戦略やプロモーション活動を計画・実行できる能力
- ④環境、文化、社会の観点から持続可能な観光開発を促進できる能力。
- ⑤予算の策定や資金調達、リソースの効果的な管理。
- ⑥デジタルマーケティングや情報技術を活用して、観光体験や管理プロセスを向上させる技術。
- ⑦災害やその他の危機に対処し、効果的に問題を解決できる危機管理能力。
- ⑧多様なステークホルダーとの効果的なコミュニケーションができること。
- ⑨変化する状況に適応し、新しいアイデアやイノベーションを導入できる対応能力。
- ⑩チームメンバーの教育やスキル向上を促進し、組織全体の力を高めること。

6. 受講・修了要件

- (1) 総講義時間の 80%以上の出席
 - (2) 総評価点の 60%以上の点数を得ること（事業立案を含む）
- (1)かつ(2)の要件を満たすことが修了要件となる。

7. 実施体制



8. 来年度開講するプログラム概要 ※募集要項をイメージして記載ください。

- ① 受講期間 2024年8月2日（金）～2024年12月6日（金）
- ② 講座数・日数・講座時間

知識・技術	科目名	日数	講義時間
1.観光地経営戦略	観光地経営戦略	4日間	90分、15回
2. 現代の観光地経営の動向 「能登の復興を考える」	DMO・DMCの実態と これからの観光地域	4日間	90分、15回
3. 観光地経営組織マネジメント	事業開発人材育成	3日間	90分、12回
4. 観光経営組織マーケティング	観光関連調査	2日間	90分、8回
5.地域観光のイノベーションと観光DX	DMO 組織づくり観光地における価値創出	2日間	90分、8回
6. 観光地経営のアントレプレナーシップと事業開発	アントレプレナーシップとして事業立案	3日間	90分、12回
		18日間	

③ 公募対象者

- ・観光業（観光協会、商工会議所、商工会）に携わる幹部候補生及びマネージャー
- ・DMO、自治体等の組織マネジメント人材

- ・観光業への進出を目指す企業・組織の担当者、起業希望者
 - ・北陸3県の「観光人材研修」及び同等の研修の修了生
- ④ 募集人数：15名
- ⑤ 募集スケジュール
- 募集開始：5月1日（水）
 - 募集締切：6月28日（金）
 - 受講生選抜（審査）：受講者の履歴書、受講審査表による審査
 - プログラム開講日：8月2日（金）
- ⑥ 受講料：60,000円
- ⑦ 受講・修了要件
- ・総講義時間の80%以上の出席
 - ・総評価点の60%以上の点数を得ること（事業立案を含む）
 - ・(1)かつ(2)の要件を満たすことが修了要件となる。
- ⑧ 教育課程表（別紙）＊「現代の観光地経営の動向」をモデルとして記載しました。

観光地経営人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	①観光地経営戦略
講義名称等	観光地経営戦略
時間・回数	90分、15回
担当講師 (予定含む)	北陸先端科学技術大学院大学教授 敷田麻実 榊原輝重税理士事務所 榊原 輝重 金沢星稜大学教授 野口 将輝 株式会社 CC イノベーション 村 俊彦
講義概要	経営戦略に材料となる自身の地域資源特性を理解し、編集する中核人材としての能力を取得する。 (観光地経営戦略策定する手法を学ぶ)
到達目標	(1)観光経営戦略として、地域全体の発展を促進するための計画を構築することができる。 (2)アカウンティング(会計)、ファイナンス(財務)を概観できる。 (3)地域の特徴や文化を強調し、観光者にアピールする手段を構築できる。 (ブランディング)
授業方法	各回ごとに、事前学習(課題)を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習(課題)のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。
評価方法	・講師は、各回の学習成果として提出された事後学習(課題)が、学習目的、学習目標、学習成果(スキル、ナレッジ、コンピテンシー)の視点で、達成度合いをルーブリック(ものさし)で評価する。 ・特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目(構成、仕方、根拠、メインメッセージ)等に基づきルーブリックを設定する。 ・評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	・竹内岳一(2019)『入門 観光学』、ミネルヴァ書房、304p ・遠藤英樹(2019)『現代観光学—ツーリズムから「いま」がみえる』遠藤英樹・橋本和也・神田孝治(編著)、新曜社、東京都、pp289p ・金川顕教(2020)『80分でマスター!【ガチ速】決算書入門』扶桑社、191p ・斎藤喜則(2010)『新版問題解決プロフェッショナル-思考と技術』ダイヤモンド社、211p ・内田和成(2006)『仮説思考 BCG 流問題発見・解決の発想法』東洋経済新報社、240p

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1 日目	第 1 回	9:00～10:30	1.観光地経営戦略 北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田麻実	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 2 回	10:45 ～ 12:15		
	第 3 回	13:00 ～ 14:30		
	第 4 回	14:45 ～ 16:15		
2 日目	第 5 回	9:00～10:30	2. アカウンティング 榎原輝重税理士事務所 榎原 輝重	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 6 回	10:45 ～ 12:15		
	第 7 回	13:00 ～ 14:30		
	第 8 回	14:45 ～ 16:15		
3 日目	第 9 回	9:00～10:30	3.ファイナンス 株式会社 CC イノベーション 村 俊彦	北陸先端科学技術大学院大学 石川県能美市旭台 1-1
	第 10 回	10:45 ～ 12:15		
	第 11 回	13:00 ～ 14:30		
4 日目	第 12 回	9:00～10:30	4.ブランディング 金沢星稜大学教授 野口 将輝	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 13 回	10:45 ～ 12:15		
	第 14 回	13:00 ～ 14:30		
	第 15 回	14:45 ～ 16:15		

観光地経営人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	②現代の観光地経営の動向
講義名称等	DMO・DMCの実態とこれからの観光地域 「能登の復興を考える」
時間・回数	90分、15回
担当講師 (予定含む)	北陸先端科学技術大学院大学教授 敷田麻実 (株)観光創造ラボ代表取締役 赤穂雄磨 北陸先端科学技術大学院大学研究員 出口高靖
講義概要	地域住民にとっての魅力の創出、環境への配慮など持続観光性を視野に 入れた観光地の考え方と方向性を学ぶ。 また、観光地経営に必須である観光政策及び規制緩和された観光関連法 規を取得する。 第13～15回では、能登半島の復興のフェーズにある「能登の復興」 をシナリオ分析の手法で考える。災害後の復興プロセスを計画し、様々 な可能性に備えるための戦略策定を行う。
到達目標	(1)旅行形態の多様化は、地域社会との関わり、環境への配慮を含む多 様な価値観（機能的価値から意味的価値）及び目的の変容が要因である こと知る。 (2)観光行政は地域の魅力を最大限に引き出し、持続可能な観光の発展 を促進する役割と促進するための活動や政策の構築を行うことを学ぶ。 (3)観光動向は多岐にわたる要因によって形成され、観光関連のニュー スやレポートを追跡し、最新の情報の把握方法を取得する。 (4)「能登の復興」をシナリオ分析により、柔軟性と適応性を持ち合わ せた複数の戦略を策定する。
授業方法	各回ごとに、事前学習（課題）を設定して、講師の講義及びワークショ ップでそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッシ ョンを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習（課題）のレポ ート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立 つ。 第13～15回は、能登の関係者から現状の報告により、被害の範囲、種 類、影響を受けたインフラ、経済、人々の生活などを把握した上で、シ ナリオ分析による戦略策定を行う。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講師は、各回の学習成果として提出された事後学習（課題）が、学習目的、学習目標、学習成果（スキル、ナレッジ、コンピテンシー）の視点で、達成度合いをルーブリック（ものさし）で評価する。 ・特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目（構成、仕方、根拠、メインメッセージ）等に基づきルーブリックを設定する。 ・評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・阿部大輔他(2020)『ポストオーバーツーリズムー限界を再生する観光戦略』学芸出版、233p ・福井一喜(2022)『「無理しない」観光：価値と多様生の再発見』ミネルヴァ書房、367p ・上山肇ほか(2021)『ポストマスツーリズムの地域観光政策ー新型コロナ危機以降の観光まちづくりの再生にむけて』公人の友社 270p.

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1日目	第1回	9:00～10:30	1.現代観光学 北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田麻実	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢9階
	第2回	10:45～ 12:15		
	第3回	13:00～ 14:30		
	第4回	14:45～ 16:15		
2日目	第5回	9:00～10:30	2.観光政策論 3.観光関連法と規制緩和について 北陸先端科学技術大学院大学 研究員 出口高靖	北陸先端科学技術大学院大学 石川県能美市旭台1-1
	第6回	10:45～ 12:15		
	第7回	13:00～ 14:30		
	第8回	14:45～ 16:15		
3日目	第9回	9:00～10:30	4.インバウンドの動向 (ポストコロナ関連) (株)観光創造ラボ代表取締役 赤穂雄磨	北陸先端科学技術大学院大学 石川県能美市旭台1-1
	第10回	10:45～ 12:15		
	第11回	13:00～ 14:30		
	第12回	14:15～ 15:45		
	第13回	10:45～	5.「能登の復興」	北陸先端科学技術大学院大学

4 日目		12:15	(シナリオ分析) てて整骨院門前店 (輪島市在住) 代表 谷遼典氏 田谷漆器店 代表 田谷昂大 北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田麻実	駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 14 回	13:00 ~ 14:30		
	第 15 回	14:15 ~ 15:45		

観光地経営人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	③ 観光地経営組織マネジメント
講義名称等	ケースメソッド：事業開発人材育成
時間・回数	90分、12回
担当講師 (予定含む)	日本ファシリテーション協会 フェロー 徳田太郎 北陸先端科学技術大学院大学 研究員 出口 高靖 国立大学法人高知大学 地域連携センター地方創成推進部門 特任准教授 川竹大輔 こうち観光ネットワーク代表 岡林 雅士
講義概要	観光地経営組織に係る要素として、①ステークホルダー（住民・行政・事業者）の巻き込み方、地域との合意形成、地域とのコミュニケーション能力②社会的使命、倫理観等について「ファシリテーション」で身につける。組織が予期せぬ出来事や災害に対して事業を継続・維持し、最小限の影響を受けるための計画（組織の継続性計画 Business Continuity Plan, BCP）を「リスクマネジメント」戦略を取得する。 観光地経営組織「こうち観光ネットワーク」をケース素材とし、これらの人材育成手法を取得する。
到達目標	(1)観光サービス創出における連携や協働の実現の鍵となる「相互作用による創造性」を働きかける知識・技術を習得する。 (2)組織における想定外の事象及び災害における組織の事業継続・維持の手法を習得する。 (3)「こうち観光ネットワーク」のケース素材から、大学と修了生組織との連携による人材育成手法を取得する。
授業方法	各回ごとに、事前学習（課題）を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習（課題）のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。
評価方法	・講師は、各回の学習成果として提出された事後学習（課題）が、学習目的、学習目標、学習成果（スキル、ナレッジ、コンピテンシー）の視点で、達成度合いをルーブリック（ものさし）で評価する。 ・特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目（構成、仕方、根拠、メインメッセージ）等に基づきルーブリックを設定する。 ・評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	・徳田太郎・鈴木まり子(2021)『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』北樹出版

	<ul style="list-style-type: none"> ・中野民夫 (2003) 『ファシリテーション革命ー参加型の場づくりの技法ー』 岩波書店、195p ・堀交俊(2016) 『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』 日本経済新聞出版社 ・根来龍之(2014) 『事業創造のロジック ダントツのビジネスを発する』 日経 BP マーケティング ・田所雅之(2017) 『起業の科学 スタートアップサイエンス』 日経 BP 社
--	---

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1 日目	第 1 回	9:00~10:30	1. ファシリテーション 日本ファシリテーション協会 フェロー 徳田太郎	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 2 回	10:45 ~ 12:15		
	第 3 回	13:00 ~ 14:30		
	第 4 回	14:45 ~ 16:15		
2 日目	第 5 回	9:00~10:30	2. リスクマネジメント 北陸先端科学技術大学院大学 研究員 出口 高靖	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 6 回	10:45 ~ 12:15		
	第 7 回	13:00 ~ 14:30		
	第 8 回	14:45 ~ 16:15		
3 日目	第 9 回	9:00~10:30	3. ケースメソッド：「こうち観光ネットワーク」 ・国立大学法人高知大学 地域連携センター地方創成推進部門 特任准教授 川竹大輔 ・こうち観光ネットワーク代表 岡林 雅士	北陸先端科学技術大学院大学 石川県能美市旭台 1-1
	第 10 回	10:45 ~ 12:15		
	第 11 回	13:00 ~ 14:30		
	第 12 回	14:45 ~ 16:15		

観光地経営人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	④ 観光地マーケティング
講義名称等	ケースメソッド：観光関連調査、コンテンツ開発
時間・回数	90分、8回
担当講師 (予定含む)	金沢星稜大学教授 野口 将輝 (株)観光創造ラボ代表取締役 赤穂 雄磨
講義概要	CRM（「Customer Relationship Management（顧客関係管理）」）は、顧客との関係を効果的に管理し、強化するための戦略とテクノロジーを取得する。また、広告、プロモーション、パブリックリレーションズなどの異なるマーケティング統合手法を取得する。 具体的に、「丘のまちびえい DMO」をケース素材とし、CRMによるデータ分析、情報発信、地域内でのブランディングアイデンティティの合意形成方法を取得する
到達目標	(1)「丘のまちびえい DMO」から IT を活用し、新規または既存の顧客の属性や嗜好性・消費行動などの詳細なデータベースを基にして、個々の顧客のニーズにあった商品やサービスを提供していくマーケティング手法（CRM）を取得する。 (2)「丘のまちびえい DMO」の実施体制と情報発信の手法から、DMO の組織の鍵を知る。 (3)次世代に美瑛を引き継ぐために、美瑛町における農業および観光業の重要性について地域住民の理解から合意形成の手法と相互理解を説明ができる。
授業方法	各回ごとに、事前学習（課題）を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習（課題）のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。
評価方法	・講師は、各回の学習成果として提出された事後学習（課題）が、学習目的、学習目標、学習成果（スキル、ナレッジ、コンピテンシー）の視点で、達成度合いをルーブリック（ものさし）で評価する。 ・特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目（構成、仕方、根拠、メインメッセージ）等に基づきルーブリックを設定する。 ・評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	・石井淳蔵(2012)『マーケティング思考の可能』岩波書店、323p ・田中洋(2014)『基本から最新まで マーケティングキーワードベスト50』株式会社ユーキャン学び出版、232p ・高橋一夫以下7名(2011)『観光マーケティング・マネジメントケースで学ぶ観光マーケティングの理論』ジエティビー能力開発、237p

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1 日目	第 1 回	9:00～10:30	1. プレイスマーケティング 金沢星稜大学教授 野口 将輝	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 2 回	10:45 ～ 12:15		
	第 3 回	13:00 ～ 14:30		
	第 4 回	14:45 ～ 16:15		
2 日目	第 5 回	9:00～10:30	2. 「丘のまちびえい DMO」 (ケースメソッド) (株) 観光創造ラボ代表取締役 赤穂 雄磨	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 6 回	10:45 ～ 12:15		
	第 7 回	13:00 ～ 14:30		
	第 8 回	14:45 ～ 16:15		

観光地経営人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	⑤ 地域観光のイノベーションと観光 DX
講義名称等	ケースメソッド：DMO 組織づくり 観光地における価値創出
時間・回数	90分、8回
担当講師 (予定含む)	公益財団法人群馬県観光物産国際協会 観光地域づくり課 DMO プロデューサー 宇津木 信之介 公益財団法人福井県観光連盟 観光地域づくりマネージャー 福井県 DMO CMO 佐竹正範
講義概要	この講義は、2つの DMO のケースメソッドを取りあげる。 1.「公益財団法人 群馬県観光物産国際協会」をケース素材とし、観光協会から DMO への転換プロセスを習得する 2.観光 DX を主導する福井県観光連盟の「福井県観光分析システム (FTAS)」を基にケースとして、観光 DX を学び、「観光データのオープン化」の方法を取得する。
到達目標	(1)DMO の組織再編に係る要件を理解し、自らが DMO 組織の運営ができる。 (2)観光 DX における観光のデータ取得、活用の一連の管理からデータの共有化を知る。
授業方法	各回ごとに、事前学習（課題）を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習（課題）のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。
評価方法	・講師は、各回の学習成果として提出された事後学習（課題）が、学習目的、学習目標、学習成果（スキル、ナレッジ、コンピテンシー）の視点で、達成度合いをルーブリック（ものさし）で評価する。 ・特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目（構成、仕方、根拠、メインメッセージ）等に基づきルーブリックを設定する。 ・評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	・高橋一夫(2017)『DMO 観光地経営のイノベーション』学芸出版、216p ・日本政策投資銀行 地域企画部(2017)『観光 DMO 設計・運営のポイントーDMO で追求する真の観光振興とその先にある地域活性化』ダイヤモンド社、268p ・大社充(2018)『DMO 入門 官民連携のイノベーション（地方創生シリーズ）』事業構想大学院大学、170p

	・宮崎裕二・岩田賢(2020)『DMOのプレイス・ブランディングー観光 デスティネーションの作り方』学芸出版社、217p
--	---

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1日目	第1回	9:00~10:30	1. ケースメソッド「公益財団法人 群馬県観光物産国際協会」 公益財団法人群馬県観光物産国際 協会 観光地域づくり課 DMO プロデューサー 宇津木 信 之介	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢9階
	第2回	10:45 ~ 12:15		
	第3回	13:00 ~ 14:30		
	第4回	14:45 ~ 16:15		
2日目	第5回	9:00~10:30	2. ケースメソッド「公益財団法人福 井県観光連盟」 公益財団法人福井県観光連盟 観 光地域づくりマネージャー 福井県 DMO CMO 佐竹正範	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢9階
	第6回	10:45 ~ 12:15		
	第7回	13:00 ~ 14:30		
	第8回	14:45 ~ 16:15		

観光地経営人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	⑥ 観光地経営のアントレプレナーシップと事業開発
講義名称等	アントレプレナーシップとして事業立案
時間・回数	90分、12回
担当講師 (予定含む)	(株)観光創造ラボ代表取締役 赤穂 雄磨 北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田 麻実
講義概要	講義で学んだ知識、マーケティング、アカウントティングの知識を用いて、成果のふり返りとアントレプレナーとして自ら事業・政策立案を実践し、各自の観光事業プランをの最終発表を行う事業の採算性を意識しつつ、社会性、新規性、実現性、市場性なども考慮して、自身の新規事業を客観的に評価することを学びます。 また、事業計画の発表に必要なプレゼンテーションの技法も学びます。
到達目標	(1)アントレプレナーの要件が、新しいアイデアやビジネスの創造、それを実現するためのリーダーシップや能力であることを知る。 (2)事業計画書を指定された様式や形式に沿って作成できる。 (3)事業計画のプレゼンテーションを通して聞き手に事業の魅力を伝達できる。
授業方法	各回ごとに、事前学習(課題)を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習(課題)のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。
評価方法	・講師は、各回の学習成果として提出された事後学習(課題)が、学習目的、学習目標、学習成果(スキル、ナレッジ、コンピテンシー)の視点で、達成度合いをルーブリック(ものさし)で評価する。 ・特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目(構成、仕方、根拠、メインメッセージ)等に基づきルーブリックを設定する。 ・評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	・根来龍之(2014)『事業創造のロジック ダントツのビジネスを発する』日経BPマーケティング ・田所雅之(2017)『起業の科学 スタートアップサイエンス』日経BP社

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1日目	第1回	9:00~10:30	1. アントレプレナーシップの創造性	北陸先端科学技術大学院大学
	第2回	10:45 ~		

		12:15	北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田 麻実	駅前オフィス ポルテ金沢 9階
	第3回	13:00 ~ 14:30		
	第4回	14:45 ~ 16:15		
2日目	第5回	9:00~10:30	2. 事業計画立案 (株) 観光創造ラボ代表取締役 赤穂 雄磨	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9階
	第6回	10:45 ~ 12:15		
	第7回	13:00 ~ 14:30		
	第8回	14:45 ~ 16:15		
3日目	第9回	9:00~10:30	3. 事業発表 (株) 観光創造ラボ代表取締役 赤穂 雄磨 北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田 麻実	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9階
	第10回	10:45 ~ 12:15		
	第11回	13:00 ~ 14:30		
	第12回	14:45 ~ 16:15		

観光産業人材

1. プログラム概略（目的含め）

本プログラムは、ガイドラインに基づき、次世代の経営者ともなる観光産業の「トップ人材」のための育成プログラムを開発する。産業活性化のカギであるトップ人材の充実は重要であり、経営者とスタッフの間に立ち、組織のコアとなって観光を推進できる人材の育成を目的とする。

またアフターコロナのパラダイムシフトに対応でき、持続可能な観光、責任ある観光の実践と、関係者との価値共創を推進しながら、ウエルビーイングの実現を目指す新たな観光産業人材育成のプログラムである。

これまでの観光産業のトップの経営人材育成は、企業内での徒弟制や企業を渡り歩く転職昇格で行われてきた。しかし、インバウンド観光の本格化と他産業における人材育成の高度化、関係者のウエルビーイングを考慮すると、この養成方法では競争力を維持できない。

本プログラムは、労働力や組織力を含む経営資源を地域資源と結合し、DX、AIをはじめとする新しい技術に対応しながら、新たな観光サービスを創造できる、ウエルビーイング経営のための「柔軟な専門性」をもったリーダー養成の研修である。

2. プログラム内容

知識・技術	科目名	講義時間	教育方法
1. 観光事業戦略	1. トップリーダーの講義と対話Ⅰ (ビジネスメンター) 2. トップリーダーの講義と対話Ⅱ (イノベーター)	90分、8回	講義とWS
2. 現代の観光動向	1. 最近の観光の動向について 2. 観光行政、観光政策について 3. 観光関連法規について 4. インバウンドの動向について	90分、10回	講義とWS
3. 組織マネジメント	1. ファシリテーションマネジメント 2. 観光サービス演習	90分、8回	講義とWS
4. アカウンティング・ファイナンス	1. アカウンティング（基礎） 2. アカウンティング（応用） 3. ファイナンス（基礎）	90分、12回	講義とWS ケースメソッド
5. 観光マーケティング	1. DMO マネジメント (ケース・スタディ) 2. ポストコロナ時代の観光サービス 3. 観光サービス創造マネジメント	90分、12回	講義とWS ケースメソッド
6. 観光産業のイノベーションと観光DX	1. イノベーションマネジメントⅠ 2. イノベーションマネジメントⅡ	90分、8回	講義とWS 発表

*WSはワークショップ

3. プログラム特徴（独自の取組・工夫など）

(1)観光人材育成における三県DMO協働による効果

①プログラム開発時の経済性

協働することで、各県で別個にスクールを組成するよりも労力・時間をかけずに良いカリキュラムを生成できる。

②プログラム内容の有用性

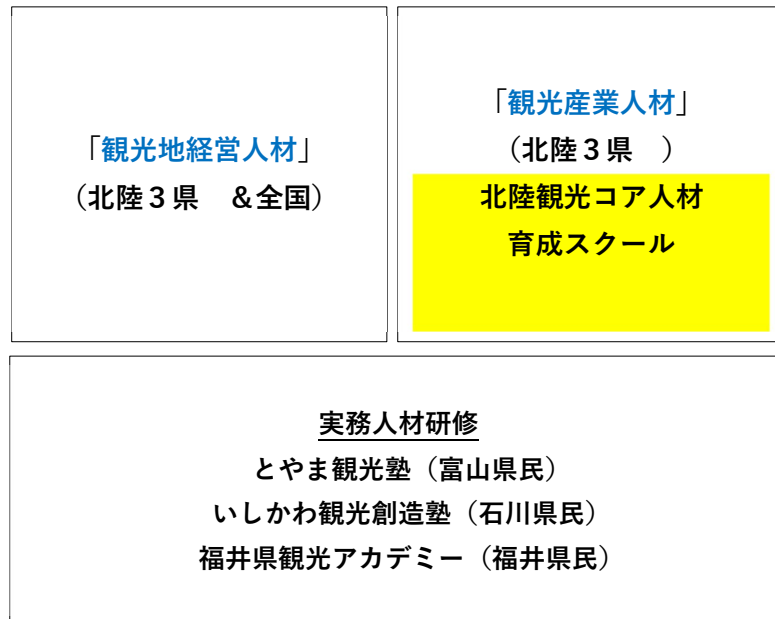
北陸三県それぞれの課題にこたえ、特定の地域の個別最適ではなく、全体最適を考慮した汎用性の高いカリキュラム構成ができる。

③プログラム受講時の人材交流

Aのスクール内における、「広域連携」のためのDMO・観光行政間の人的ネットワークが醸成できる。

④プログラム受講後の人材プール

スクール横断的(A,B,C)な修了生ネットワークによる、産業と県境を越えた新事業、プロジェクトの創出が期待できる



(2)プログラム設計における能力規定

- ①ワークロールまたはポジション=何を実現するかを規定 (例: DMOのマネージャー)
タスク=どのようなことをするかを設定 (例: DMOマネージャーとして地域ブランディングを実施)
- ②コンピタンス=タスクを実施するために必要な学修成果(〇〇ができる、という能力規定)
(例: ブランディングの基礎を理解している)
(ただし、経験で読み替え可能: DMOで何年〇〇を担当した。△△で〇〇スキルとナレッジを学んだ)
- ③スキルとナレッジ=支えるための個人的資質と学習実績
スキル=繰り返し実施できるプロセス遂行技術 (例: ブランドイメージを構築できる)
ナレッジ=スキルを支える必要な体系的知識 (例: ブランディングプロセスを理解している)

(3)能力規定と各科目の関係

各科目は学習すべきスキルとナレッジで構成し、能力を分画して説明できるようにする
今まで①観光地経営戦略 経営戦略に材料となる自身の地域資源特性を理解し、編集する実務担当者としての能力(観光地経営戦略策定する手法を学ぶ)。
これからは、①観光地経営戦略を樹立できる 戦略マネージャー、戦略が樹立できる、戦略樹立のプロセス理解、戦略樹立の標準アプローチの知識と組織で樹立するプロセスを設計できる。

(4)講義内容について

- ①講義時間の考え方
事前課題(下調べ、文献購読等)+講義+事後課題(レポート等)で、1コマの総時間数が成り立

つ。

②教育手法の種類-

- ・実施形態・・・対面、遠隔、ハイブリッド、オンデマンド
- ・学習形態・・・座学、実習、演習、個別学習、グループワーク
- ・教育手法・・・アクティブラーニング、反転学習、ケースメソッド、ディスカッション、PBL 等

③単位について

- ・1回は、90分として設定し、事前事後学習を伴う（義務づける）ユニットとする
- ・ユニットごとにスキルとナレッジ（知識）を規定し、コンピテンシーを規定する。

(5)観光産業人材の講義

- ・全講義をインタラクティブにするために、事前課題（下調べ、文献購読等）で事前に学修してくる反転学習として、事後課題（レポート等）を設定する。
- ・事後課題については、講師がルーブリックに基づき、評価する。
- ・ケースメソッドは、ケース素材を使って、受講生が主体的に考える講義で、講師はサポートする講義である。既存の知識を獲得するのではなく、考え抜く能力を獲得する。より事前学習が重要である。

4. プログラム受講によって修得できる知識・技能

- (1)地域資源の持続可能な開発や利用を推進する能力
- (2)受講者自らが依拠する特定の観光分野の体系化された専門知識。
- (3)プロジェクトの計画、実行、評価するプロジェクトマネジメント能力
- (4)多様なステークホルダーと連携するためのファシリテーション能力
- (5)資源を経済に変換する知識やスキル（アカウンティング）
- (6)マーケティングや広報活動に関する知識とスキル
- (7)組織運営のためのガバナンス能力と非営利組織、NPO のマネジメント能力。

5. プログラム提供によって輩出する人物像（受講対象者と受講後の姿など）

(3) 受講対象者

- ・観光協会や温泉組合の事務局長
- ・商工会議所、商工会の事務局長
- ・自治体の観光担当部署の職員
- ・旅行会社の経営者・マネージャー
- ・宿泊施設の経営者・後継者・マネージャークラス
- ・一定レベル（実務担当者）以上の観光人材育成コース修了生

(4) 受講後の姿

観光産業人材は、観光事業の経営者・経営者として観光による付加価値の拡大を目指す一方で持続可能観光の実現を目指す。

また、社会変化や自然災害等があっても、社会的使命に従い観光事業を継続できる人材である。一方、観光事業の経営者・経営層を、将来事業を担う人材として、経営人材と実務人材の橋渡しを担い、組織のリーダーとして、経営者・経営層が示すビジョンの実現とミッションの遂行をできる人材である。

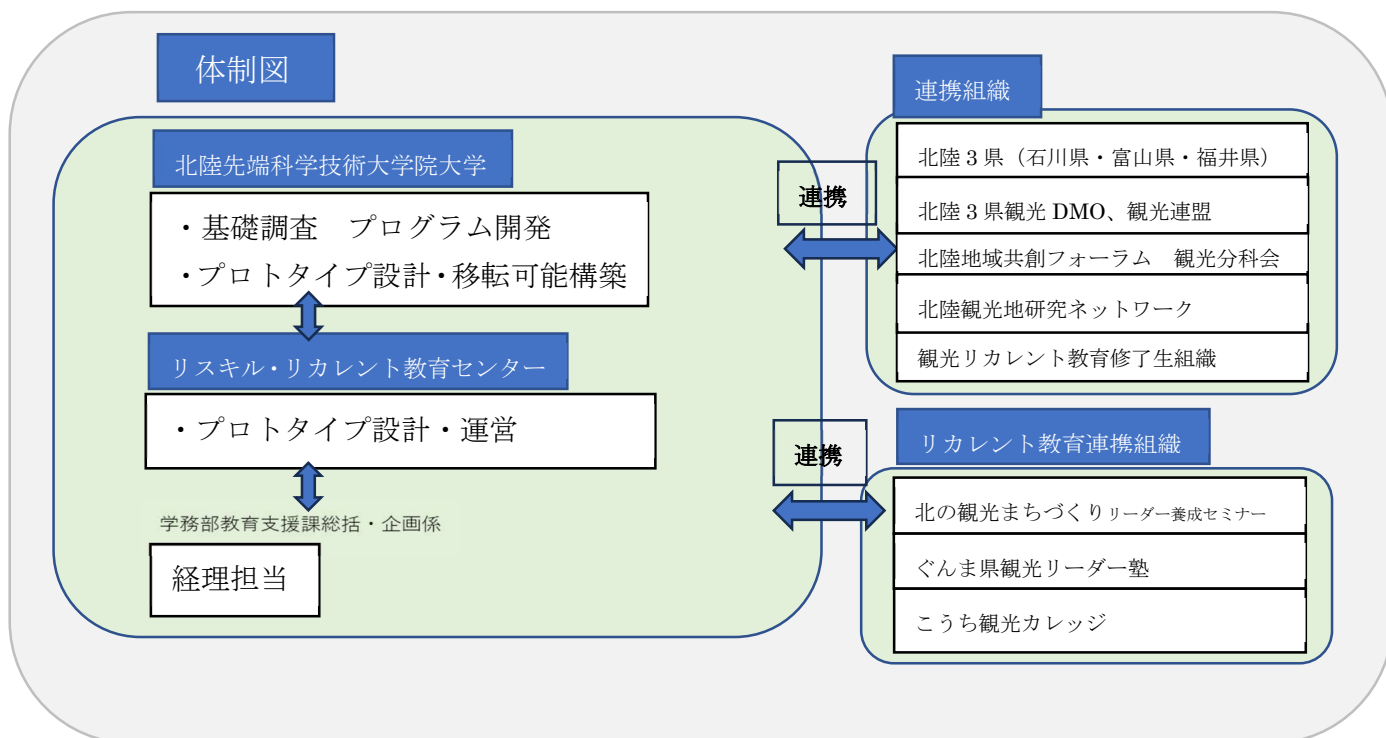
6. 受講・修了要件

(3) 総講義時間の 80%以上の出席

(4) 総評価点の 60%以上の点数を得ること（事業立案を含む）

(1)かつ(2)の要件を満たすことが修了要件となる。

7. 実施体制



8. 来年度開講するプログラム概要 ※募集要項をイメージして記載ください。

⑨ 受講期間 2024年10月1日(火)～2025年2月21日(金)

⑩ 講座数・日数・講座時間

知識・技術	科目名	日数	講義時間
1. 観光事業戦略	1. トップリーダーの講義と対話Ⅰ (ビジネスメンター) 2. トップリーダーの講義と対話Ⅱ (イノベーター)	2日間	90分、8回
2. 現代の観光動向	1. 最近の観光の動向について 2. 観光行政、観光政策について 3. 観光関連法規について 4. インバウンドの動向について	3日間	90分、10回
3. 組織マネジメント	1. ファシリテーションマネジメント 2. 観光サービス演習	2日間	90分、8回
4. アカウンティング・ファイナンス	1. アカウンティング	3日間	90分、12回

	(基礎) 2. アカウンティング (応用) 3. ファイナンス(基礎)		
5. 観光マーケティング	1. DMO マネジメント (ケース・スタディ) 2. ポストコロナ時代の 観光サービス 3. 観光サービス創造マ ネジメント	3日間	90分、12回
6. 観光産業のイノベーションと観 光DX	1. イノベーションマネ ジメントⅠ 2. イノベーションマネ ジメントⅡ	2日間	90分、8回
		15日間	

⑪ 公募対象者

- ・ 観光業（観光協会、商工会議所、商工会）に携わる幹部候補生及びマネージャー
- ・ DMO、自治体等の組織マネジメント人材
- ・ 観光業への進出を目指す企業・組織の担当者、起業希望者
- ・ 北陸3県の「観光人材研修」及び同等の研修の修了生

⑫ 募集人数：20名

⑬ 募集スケジュール

募集開始：5月31日（金）

募集締切：7月31日（水）

受講生選抜（審査）：受講者の履歴書、受講審査表による審査

プログラム開講日：10月1日

⑭ 受講料：40,000円

⑮ 受講・修了要件

- ・ 総講義時間の80%以上の出席
- ・ 総評価点の60%以上の点数を得ること（事業立案を含む）
- ・ (1)かつ(2)の要件を満たすことが修了要件となる。

⑯ 教育課程表（別紙）＊「観光事業戦略」をモデルとして記載しました。

観光産業人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	① 観光事業戦略
講義名称等	1. トップリーダーの講義と対話Ⅰ（ビジネスメンター） 2. トップリーダーの講義と対話Ⅱ（イノベーター）
時間・回数	90分、8回
担当講師 （予定含む）	1. トップリーダーの講義と対話Ⅰ（ビジネスメンター） 株式会社ネクスウェイ 荒野高志 2. トップリーダーの講義と対話Ⅱ（イノベーター） 株式会社能作 代表取締役 能作千春
講義概要	1. トップリーダーの講義と対話Ⅰ（ビジネスメンター） 自分にとっての仕事の意味や、これから何をなすべきか、なのためにビジネスをするかなど、観光分野でビジネスを進める際に必要な基本的な『ビジネス哲学』を経営者としての経験豊富な講師から学びます。また、イノベーションが必要とされる現代ビジネス現場で、ビジョンを持つことの大切さや、ビジョンを示すビジョナリーの役割の重要性について解説する。後半の対話形式のワークショップでは、受講生はイノベーションを促進するリーダー像を学ぶ。 2. トップリーダーの講義と対話Ⅱ（イノベーター） 今までの事業運営のスタイルや組織形態のまま、新しい働き方や経営改革ができるわけではない。この講義では、企業が持つ今までの資産を生かしながら、変革を恐れずに新しい事業に進出することや、業態や事業内容も行く例を「能作」の企業から学びます。
到達目標	1. トップリーダーの講義と対話Ⅰ（ビジネスメンター） (1) 自分がビジネスを進める際の基本的な考え方を説明できる。 (2) イノベーションの意味や重要性、影響を説明できる。 (3) 自分が属する組織のビジネスの基本的な考え方を文書にまとめることができる。 (4) 対話の中から気づきを得るワークショップに積極的に参加し、自分の考え方を整理して発言することができる。 2. トップリーダーの講義と対話Ⅱ（イノベーター） (1) ビジョンを持って組織の経営を変革するプロセスを事例から説明できる。 (2) 新しい発想の観光事業に取り組む理由を説明できる。 (3) 社員や組織構成員と共に変革を進める新しいリーダーの役割を認識できる。
授業方法	各回ごとに、事前学習（課題）を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習（課題）のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師は、各回の学習成果として提出された事後学習（課題）が、学習目的、学習目標、学習成果（スキル、ナレッジ、コンピテンシー）の視点で、達成度合いをルーブリック（ものさし）で評価する。 ・ 特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目（構成、仕方、根拠、メインメッセージ）等に基づきルーブリックを設定する。 ・ 評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	井上岳一(2019)『日本列島回復論—この国で生き続けるために』新報社、308p 高崎経済大学地域科学研究所(2021)『観光政策への学際的アプローチ』280p

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1 日目	第 1 回	9:00~10:30	1. トップリーダーの講義と対話Ⅰ（ビジネスメンター） 株式会社ネクスウェイ 荒野高志	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 2 回	10:45 ~ 12:15		
	第 3 回	13:00 ~ 14:30		
	第 4 回	14:15 ~ 15:45		
2 日目	第 5 回	9:00~10:30	2. トップリーダーの講義と対話Ⅱ（イノベーター） 株式会社能作 代表取締役 能作千春	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 6 回	10:45 ~ 12:15		
	第 7 回	13:00 ~ 14:30		
	第 8 回	14:15 ~ 15:45		

観光産業人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	② 現代の観光動向
講義名称等	最近の観光の動向について
時間・回数	90分、10回
担当講師 (予定含む)	(株)観光創造ラボ代表取締役 赤穂 雄磨 北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田 麻実
講義概要	観光の持つ社会的意味やビジネスとしての可能性など、観光産業や活動に関与する受講生が観光の社会的、経済的重要性を理解する。 さらに、①観光を取り巻く状況・政府の政策、観光事業を担う人材育成事業についてマクロの視点で学ぶ②観光を取り巻く最新の動向をミクロの視点で学ぶ③能登半島震災後の復興について議論する。
到達目標	(1)観光の社会的役割や観光の仕組みを説明することができる。 (2)観光の持つ社会的、経済的可能性と課題を説明できる。 (3)国際、国内観光の近年の動向と、これからの観光のあり方のデータを示して第三者に説明できる。 (4)ポストコロナの観光再生に向けた対策を説明できる。
授業方法	各回ごとに、事前学習(課題)を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習(課題)のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。
評価方法	・講師は、各回の学習成果として提出された事後学習(課題)が、学習目的、学習目標、学習成果(スキル、ナレッジ、コンピテンシー)の視点で、達成度合いをルーブリック(ものさし)で評価する。 ・特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目(構成、仕方、根拠、メインメッセージ)等に基づきルーブリックを設定する。 ・評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	・井上岳一(2019)『日本列島回復論—この国で生き続けるために』新報社、308p ・高崎経済大学地域科学研究所(2021)『観光政策への学際的アプローチ』280p

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1日目	第1回	9:00~10:30	1. 最近の観光の動向について 北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田 麻実	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢9階
	第2回	10:45 ~ 12:15		

	第3回	13:00 ~ 14:30		
	第4回	14:45 ~ 16:15		
2日目	第5回	9:00~10:30	2. 観光行政、観光政策について 3. 観光関連法規について (株) 観光創造ラボ代表取締役 赤穂 雄磨	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢9階
	第6回	10:45 ~ 12:15		
	第7回	13:00 ~ 14:30		
	第8回	14:45 ~ 16:15		
3日目	第9回	9:00~10:30	4. インバウンドの動向について (株) 観光創造ラボ代表取締役 赤穂 雄磨	北陸先端科学技術大学院大学 石川県能美市旭台1-1
	第10回	10:45 ~ 12:15		

観光産業人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	③ 組織マネジメント
講義名称等	1.ファシリテーションマネジメント、2.観光サービス演習
時間・回数	90分、8回
担当講師 (予定含む)	日本ファシリテーション協会 フェロー 徳田太郎 (株)観光創造ラボ代表取締役 赤穂 雄磨
講義概要	<p>1.ファシリテーションマネジメント 観光事業や観光地経営のトップ人材は、関係者の利害を超えた解決案を導く考え方やスキルとしての「ファシリテーション」が重要です。「ファシリテーション」とは、関係者の参加の場を作ることで、共創や協働を支援する働きかけです。本講義では、観光分野の活動におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習で学び、基礎的なスキルを習得する。</p> <p>2.観光サービス演習 地域の観光に関する新規事業を立案し、事業の計画書（提案書）を作成する。同時に各自の新規事業のアイデアを他者に伝える技法であるセールスピッチ（ショートプレゼンテーションを学ぶ。最後に、その内容を発表する。その内容は、社会性、新規性、市場性等の基準で受講生と講師が評価する。</p>
到達目標	<p>1.ファシリテーションマネジメント (1)参加者主体の話し合いの方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義と役割が説明できる。 (2)観光サービス創出における連携や協働の実現の鍵となる「相互作用による創造性」を育むための働きかけができる。 (3)場の参加者の個性を生かし、ともに協力しあうチームや組織を育ていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。 ・観光サービスを創り出していくためのファシリテーションスキルを学習し、チームビルディング能力を習得する</p> <p>2.観光サービス演習 (1)事業計画書（提案書）に必要な情報を指定された様式や形式に沿って作成できる。 (2)事業計画のプレゼンテーションを通して聞き手に事業を簡潔に伝達できる。 (3)地域の観光を促進する事業として十分な共感を得ることができる。 (4)新しい観光サービスを創出するための事業創造の手法を取得する</p>
授業方法	各回ごとに、事前学習（課題）を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習（課題）のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。

事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師は、各回の学習成果として提出された事後学習（課題）が、学習目的、学習目標、学習成果（スキル、ナレッジ、コンピテンシー）の視点で、達成度合いをルーブリック（ものさし）で評価する。 ・ 特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目（構成、仕方、根拠、メインメッセージ）等に基づきルーブリックを設定する。 ・ 評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 徳田太郎・鈴木まり子(2021)『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法』北樹出版 ・ 中野民夫 (2003)『ファシリテーション革命ー参加型の場づくりの技法ー』岩波書店、195p ・ 堀交俊(2016)『ファシリテーション・ベーシックス：組織のパワーを引き出す技法』日本経済新聞出版社 ・ 根来龍之(2014)『事業創造のロジック ダントツのビジネスを発する』日経 BP マーケティング ・ 田所雅之(2017)『起業の科学 スタートアップサイエンス』日経 BP 社

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1 日目	第 1 回	9:00～10:30	1. ファシリテーションマネジメント 日本ファシリテーション協会 フェロー 徳田太郎	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 2 回	10:45 ～ 12:15		
	第 3 回	13:00 ～ 14:30		
	第 4 回	14:45 ～ 16:15		
2 日目	第 5 回	9:00～10:30	2. 観光サービス演習 (株) 観光創造ラボ代表取締役 赤穂 雄磨	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 6 回	10:45 ～ 12:15		
	第 7 回	13:00 ～ 14:30		
	第 8 回	14:45 ～ 16:15		

観光産業人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	④ アカウンティング・ファイナンス
講義名称等	1.アカウンティング（基礎）、2.アカウンティング（応用）、3.ファイナンス（基礎）
時間・回数	90分、12回
担当講師 （予定含む）	榊原輝重税理士事務所 榊原輝重 株式会社 CC イノベーション 村俊彦
講義概要	<p>1.アカウンティング（基礎）</p> <p>受講生の皆さんは「会計・簿記・財務・経理の違いを説明して下さい」と問われて明瞭にできますか、本講義は、会計は難しい、面倒くさいといったアレルギー反応をなくし、決算書が読めることを目的として、次のことを学ぶ。①「決算書が読める」ための最低必要な知識や仕組み②決算書鵜の内、財務3表である「貸借対照表」、「損益計算書」、「キャッシュフロー計算書」に記載されている内容を学ぶ。</p> <p>2.アカウンティング（応用）</p> <p>「決算書を分析する」とは、数字から会社の特徴や抱える課題を読み取ることである。この講義は、アカウンティング基礎編の講義をベースに、決算書は作れなくても、読める。活用の為に決算書を分析的に見ること、実際の経営の改善につなげることを目的として、次のことを学ぶ。①決算書の具体的な分析方法と各種の会計指標の意味②実務家視点の決算書から経営改善に結び付ける手法である。</p> <p>3.ファイナンス（基礎）</p> <p>アカウンティングで学習した内容（財務諸表の理解及び決算書の見方）を踏まえ、新規事業の為に資金調達に必要な事業計画書を作るための基礎知識と主に金融機関を資金調達相手にした際のファイナンス（資金調達）を含む、筋のよい（魅力ある）事業計画書の作成について、講義とワークショップで学ぶ。</p> <p>その際には、①金融機関が与信判断を行う際に資金計画や決算書のような点に着眼するか②金融機関に「是非融資をさせてもらいたい」と言わせる事業計画書の具体的な内容について学ぶ。</p>
到達目標	<p>1.アカウンティング（基礎）</p> <p>(1)決算書の意義と仕組みを理解できる。</p> <p>(2)貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書財務三表の記載内容を知る。</p> <p>2.アカウンティング（応用）</p> <p>(1)経営分析の手法を理解して、実際の財務諸表の特徴と課題を読み取る。</p> <p>(2)会計の実務家視点の経営改善を学び実務でできる能力を取得する。</p> <p>3.ファイナンス（基礎）</p> <p>(1)財務3表と呼ばれる、「貸借対照表」、「損益計算書」、「キャッシュフロー計算書」を基に事業計画を立てる。</p> <p>(2)新規事業立ち上げに効果的な優れた事業計画書の要件について理解し、作成できる。</p>

授業方法	各回ごとに、事前学習（課題）を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習（課題）のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講師は、各回の学習成果として提出された事後学習（課題）が、学習目的、学習目標、学習成果（スキル、ナレッジ、コンピテンシー）の視点で、達成度合いをルーブリック（ものさし）で評価する。 ・特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目（構成、仕方、根拠、メインメッセージ）等に基づきルーブリックを設定する。 ・評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・金川顕教(2020)『80分でマスター！「ガチ速」決算書入門』扶養社、191p ・小宮一慶(2010)『決算書速習教室』PHP 研究所、189p ・渡邊泉(2017)『会計学の誕生－複式簿記が変えた世界』岩波書店、213p ・斎藤嘉則(2010)『新版問題解決プロフェッショナル思考と技術』ダイヤモンド社、211p ・内田和成(2006)『仮説思考 BCG 流 問題発見・解決の発想』東洋経済新報社、240p

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1 日目	第 1 回	9:00～10:30	1.アカウンティング（基礎） 榊原輝重税理士事務所 榊原輝重	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 2 回	10:45 ～ 12:15		
	第 3 回	13:00 ～ 14:30		
	第 4 回	14:45 ～ 16:15		
2 日目	第 5 回	9:00～10:30	2.アカウンティング（応用） 榊原輝重税理士事務所 榊原輝重	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 6 回	10:45 ～ 12:15		
	第 7 回	13:00 ～ 14:30		
	第 8 回	14:45 ～ 16:15		

2 日目	第 9 回	9:00~10:30	3.ファイナンス（基礎） 株式会社 CC イノベーション 村俊彦	北陸先端科学技術大学院大学 石川県能美市旭台 1-1
	第 10 回	10:45 ~ 12:15		
	第 11 回	13:00 ~ 14:30		
	第 12 回	14:45 ~ 16:15		

観光産業人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	⑤ 観光マーケティング
講義名称等	1.DMO マネジメント（ケース・スタディ）、2.ポストコロナ時代の観光サービス、3.観光サービス創造マネジメント
時間・回数	90分、12回
担当講師 （予定含む）	公益財団法人福井県観光連盟 福井県 DMO CMO 佐竹正範 北陸先端科学技術大学院大学 研究員 赤穂雄磨 北陸先端科学技術大学院大学 教授 白肌邦生
講義概要	<p>1.DMO マネジメント（ケース・スタディ） 観光庁が制度化し組織の構築や運営が進められている、観光関連組織である DMO について学ぶ。特に、観光地経営や運営の視点で、DMO に期待される役割、観光地をどのように魅力的ににし、地域のブランド化を進め、マーケティングを進められるかを主に福井県の DMO の事例から学ぶ。また、DMO の役割を実現する為に必要な DMO 組織構築や運営方法をもとに、マーケティングの方向性を考えるデータドリブンな観光マーケティングを考える。</p> <p>2.ポストコロナ時代の観光サービス 観光創造マネジメントから学ぶ、サービス創出のための技法を通して発見した新規事業の目的や顧客ニーズ、社会課題をもとに、観光分野における新規事業の立案をする。新規事業立案はそのための準備では「仮説の設定と検証」という思考方法を身につけることが重要である。その為に、講義は、マーケティングの考え方を活かして事業を構想・設計する演習を行う。同時に、「トップ人材」として新規事業推進のための体制構築の知識も学ぶ。</p> <p>3.観光サービス創造マネジメント 新しい観光サービスを組織的に創出するためのマインドセットを醸成します。リスクを低減し、チャンスを最大化するために、改めて「サービスとは何か」を問い直し、最新の理論から学ぶ。また組織的にサービスを創造しマネジメントする視点を学習し、「トップ人材」として必要な「サービス組織」のあり方、トレンド理解します。</p>
到達目標	<p>1.DMO マネジメント（ケース・スタディ） (1)DMO に期待される役割や組織と経営のポイントを説明できる。 (2)DMO が行う事業のうち、プレイスブランディングとマーケティングの意味や重要性、推進方法を説明できる。 (3)DMO の持続可能な運営に必要なマネジメントについて自分の考えを理論的に述べる事ができる。</p> <p>2.ポストコロナ時代の観光サービス (1)事業アイデアを構想できる。 (2)マーケティングを通して事業アイデアの課題・仮説の設定・検証が行われる。 (3)市場調査ができる。 (4)事業アイデアを具体的なビジネスモデルに転換できる。 (5)新規事業を推進する体制づくりができる。</p>

	<p>3.観光サービス創造マネジメント</p> <p>(1)サービスの品質に関する考え方を従業員に説明できる。</p> <p>(2)サービスを実践する「トップ人材」として、従業員の仕事の仕方に関して考えるべき視点を自らもてるようになる。</p> <p>(3)サービスを実践する「トップ人材」として、顧客志向組織を形成していくうえで考えるべき視点を自らもてるようになる。</p>
授業方法	各回ごとに、事前学習（課題）を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習（課題）のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講師は、各回の学習成果として提出された事後学習（課題）が、学習目的、学習目標、学習成果（スキル、ナレッジ、コンピテンシー）の視点で、達成度合いをルーブリック（ものさし）で評価する。 ・特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目（構成、仕方、根拠、メインメッセージ）等に基づきルーブリックを設定する。 ・評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋一夫(2020)『DMO 観光地経営イノベーション』学芸出版、216p ・森下晶美(2016)『新版観光マーケティング入門』同友館、229p ・ローラ・ブッシュ(2016)『リーブランドイングーリーンスターアップによるブランド構築』オライリージャパン、356p

授業計画

			講座名・講師	講義場所
1日目	第1回	9:00～10:30	1.DMO マネジメント (ケース・スタディ) 公益財団法人福井県観光連盟 福井 DMOCMO 佐竹正範	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9階
	第2回	10:45 ～ 12:15		
	第3回	13:00 ～ 14:30		
	第4回	14:45 ～ 16:15		
2日目	第5回	9:00～10:30	2.ポストコロナ時代の観光サービス 北陸先端科学技術大学院大学 研究員 赤穂雄磨	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9階
	第6回	10:45 ～ 12:15		
	第7回	13:00 ～ 14:30		

	第 8 回	14:45 ~ 16:15		
3 日目	第 9 回	10:45 ~ 12:15	3.観光サービス創造マネジメント	北陸先端科学技術大学院大学 石川県能美市旭台 1-1
	第 10 回	13:00 ~ 14:30	北陸先端科学技術大学院大学 教授 白肌邦生	
	第 11 回	14:45 ~ 16:15		
	第 12 回	10:45 ~ 12:15		

観光産業人材 シラバス	
ガイドラインテーマ	⑥ 観光産業のイノベーションと観光 DX
講義名称等	1.イノベーションマネジメントⅠ、2.イノベーションマネジメントⅡ
時間・回数	90分、8回
担当講師 (予定含む)	金沢大学 教授 金間大介
講義概要	<p>「新しいアイデアや技術はいかにして市場や社会を変えていくのか？」という問いを最大のテーマに、いかに現在の社会経済においてイノベーション創出が重要であるか学びます。そして、イノベーション論の基礎知識や考え方、現在の日本社会におけるイノベーションの重要性、今後のイノベーション創出に向けたヒントなどを修得します。また、イノベーション創出プロセスにおける高付加価値化および収益化の方策を学びます。そのために、マーケティングに関する知識を学ぶことも目的とします。</p> <p>さらに、イノベーションの源泉は、突き詰めれば個人であることから、現代における人のモチベーションのあり方について焦点を当てます。</p>
到達目標	<p>(1)イノベーションの基本的な役割、コンセプト、仕組みについて説明できる。</p> <p>(2)新事業創出に関する多様なビジネスモデルを理解できる。</p> <p>(3)イノベーション実現の為の手段である新事業化・組織作り、社内ベンチャー、異業種連携、M&A等の方法を説明できる。</p> <p>(4)観光事業の価値創造のために、イノベーティブな事業を構想し、ビジョンを社内で共有できる。</p>
授業方法	各回ごとに、事前学習（課題）を設定して、講師の講義及びワークショップではそれを基に、各受講生のプレゼンテーションまたはディスカッションを行う。さらに、各回の振り返りとして、事後学習（課題）のレポート等の提出を行い、各回の事前学習、講義、事後学習で講義が成り立つ。
事前課題	課題内容、出題予定日、提出日、評価方法を提示する。
事後課題	課題内容、提出日、評価方法を提示する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講師は、各回の学習成果として提出された事後学習（課題）が、学習目的、学習目標、学習成果（スキル、ナレッジ、コンピテンシー）の視点で、達成度合いをルーブリック（ものさし）で評価する。 ・特に、プレゼンテーション、計画立案の成果物の評価は、項目（構成、仕方、根拠、メインメッセージ）等に基づきルーブリックを設定する。 ・評価方法としては、各回あるいは科目単位毎に、講師はルーブリックを作成して、項目と点数等具体的な評価方法を公表する。
必要教材・参考文献等	・金間大介・山内勇・吉岡(小林)徹(2019)『イノベーション&マーケティングの経済学』中央経済社、228p

	<ul style="list-style-type: none"> ・マイケル・リューリック、パトリック、ラリー・ライファー(2019)『デザインシンキング・プレイブックデジタル化時代のビジネス課題を今すぐ解決する』翔泳社、328p ・武藤泰明(2020)『マネジメントの文明史ーピラミッド建設から GAFA まで』日経 BP、400p ・清水洋(2019)『野生化するイノベーション：日本経済「失われた 20 年」を超える (新潮選書)』新潮社、264p
--	--

			講座名・講師	講義場所
1 日目	第 1 回	9:00~10:30	1.イノベーションマネジメント I 金沢大学 教授 金間大介	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 2 回	10:45 ~ 12:15		
	第 3 回	13:00 ~ 14:30		
	第 4 回	14:45 ~ 16:15		
2 日目	第 5 回	9:00~10:30	2.イノベーションマネジメント II 金沢大学 教授 金間大介	北陸先端科学技術大学院大学 駅前オフィス ポルテ金沢 9 階
	第 6 回	10:45 ~ 12:15		
	第 7 回	13:00 ~ 14:30		
	第 8 回	14:45 ~ 16:15		